

聖地のこどもニュース

オリーブの木

No. 71
2019年2月



クリスマスの街で出会った子どもたち。(ラマラ)

毎年春に「平和構築」や「紛争解決学」を志す日本の大学生とともにイスラエル・パレスチナへ行く。彼らは大学の講義や研究書から得る知識にあきたらず、自分の目と耳で、肌で感じたいという。紛争に苦しむ人々に寄り添うことを、心の目と耳で学んでほしい。学生たちは、エルサレムではパレスチナ人家庭、テルアビブではイスラエル人の家庭でホームステイ。迎えてくれる家族の温かさにきっと感激するだろう。平和や希望が見えにくい社会に住む苦しみを感じ取れば、かけがえのない体験となるだろう。

ヨルダン川西岸地区の占領政策が50年以上続き、和平交渉は2014年以来中断している。イスラエル社会はますます右傾化し、「国益」を第一にして譲らず、また錯綜する国際情勢に翻弄されるこの地に、いつ真の平和が実現するのか？

次世代を担う3カ国の若者たちが、「平和構築」のため具体的に働くことを願っている。

理事長 井上 弘子



認定NPO法人

聖地のこどもを支える会



当NPOは、国際協力NGOセンター(JANIC)によるアカウンタビリティ・セルフチェックを受け、基準の4分野(組織運営・事業実施・会計・情報公開)について適正に運営されていると審査されました。

事務局 〒164-0003 東京都中野区東中野 5-8-7-502 Email ispalejpn@gmail.com TEL/FAX 03-6908-6571

ご支援は… 郵便振替 **00180-4-88173** 加入者名 「NPO法人 聖地のこどもを支える会」

当法人へのご寄付は、税制優遇が受けられます。

<http://seichi-no-kodomo.org>

イスラエル前倒し総選挙、4月に投票

村上 宏一（当法人理事・元朝日新聞中東アフリカ総局長）

今年11月に予定されていたイスラエルの総選挙が前倒しされ、4月9日に投票されることになりました。突然の決定は去年11月、極右政党「イスラエル我が家」のリーバーマン党首が、ネタニヤフ内閣の国防相を辞任し連立政権からの離脱を表明したからです。連立政権は国会の120議席中67議席を持っていたのが、61議席と1議席だけの過半数しか確保できなくなりました。

これでは安定した政権運営ができないと、首相は総選挙に打って出たわけですが、ネタニヤフ首相には汚職疑惑で検察から訴追される可能性が取り沙汰されており、選挙中は起訴を逃れられると目論んでいる、との見方もあります。

では「イスラエル我が家」が政権離脱した理由は何か。去年11月中旬、ガザ地区からイスラエル領内へ向けて300発以上といわれるロケット砲が発射されたのに対し、イスラエル空軍が100回以上の空爆でイスラム組織ハマスの拠点などを攻撃する戦闘が起きました。エジプトの仲介により、二日で双方とも停戦を受け入れましたが、リーバーマン国防相はこの停戦を不満として辞任しました。もっと徹底してハマスを叩け、というわけです。

強硬派ぶりを競う？

ネタニヤフ政権は右派色が強く、パレスチナ和平にも積極的ではありませんが、中でも「イスラエル我が家」は特に反アラブ意識が強く対パレスチナ強硬派で、イスラエル国籍のアラブ人に対してもユダヤ人国家への忠誠を求めるような政党です。ここ20年ほどで多数派になったロシア系移民の支持が根強い同党は、2009年の総選挙で15議席を獲得、国会で第3党にまで伸ばしました。前回2015年3月の選挙でも同等の勢力を維持するものとみられていましたが、ネタニヤフ首相が選挙戦で「私が首相である間はパレスチナ国家はできない」と発言するなどして右派・保守層の取り込みを図り、選挙前の世論調査の予想を覆して、首相率いる

「リクード」が第1党となったのです。リクードは改選前の議席に12も上乗せし、右派・極右政党が計11議席減らしたという数字に、首相の右派向けアピールが利いたことが表れています。

今回の「イスラエル我が家」の政権離脱は、選挙へ向け右派取り込み合戦に先手を打った、という側面があるのかもしれませんが。

ところで、停滞しているパレスチナ和平交渉を復活させるには、イスラエル・パレスチナ二国家共存の必要性を再確認すること、和平支持の世論が強まることが欠かせません。2015年総選挙後の国会の議席配分を見ると：

リクード30議席（中道右派）、クラヌー10議席（リクード分派、中道右派）、ユダヤの家8議席（右派）、シャス7議席（宗教政党）、ユダヤ教連合6議席、イスラエル我が家6議席（極右）の6政党、67議席で連立内閣を形成していた中から、イスラエル我が家が抜けたのでした。

※（注）総選挙へ向け新党の動きなどがあり、議席の変動があり得ます。

ネタニヤフ氏が最初に首相になったのは1996年7月。パレスチナ和平に積極的に取り組んでいたラビン首相が暗殺され、パレスチナ側による爆弾テロが多発する中、和平交渉に反対する空気に後押しされて選挙戦を制したものです。汚職疑惑などもあり一旦は政界を離れましたが、2002年にはリクード党内で「パレスチナ自治政府のアラファト議長（当時）追放」「パレスチナ国家反対」などを掲げて復帰しています。中道勢力と対立し、党を割ることになりますが、15年の前回総選挙で見せたように、ここという時には強硬姿勢を打ち出して世論に訴えることで勢力を維持してきました。

首相として再登場した2009年の連立政権の時から極右政党〈イスラエル我が家〉を閣内に取り込んでおり、和平交渉には終始消極的です。米国のオバマ前大統領が、二国家共存の確認により和平を推進すること、ヨルダン川西岸でのユダヤ人入植を

止めることを求めていたのに対し、受け入れる姿勢を示さなかったことにも、それは表れていました。

内輪もめの和平派

こうした状況に変化の可能性はあるのでしょうか。国会での野党議席は：

シオニスト連合24議席（中道左派、労働党19議席・ハトゥヌア4議席・緑の党1議席）、イエシュ・アティッド11議席（中道左派）、メレツ5議席（左派）、アラブ統一党派13議席の計53議席です。

やせ細ったとはいえ、イスラエル建国以来、長年にわたって政権を担うことが多かった労働党は、野党の核をなす存在のはずでした。ところが今年になって早々、労働党のガバイ党首がハトゥヌアとの提携を解消すると発言したのです。理由はすっきりしたのではなく、ハトゥヌアのリブニ党首との信頼関係が元々弱かったのが、決定的になったと言われています。

この提携解消は、すぐにマイナスの反応を招いています。直後に実施されたメディアによる世論調査で、労働党の獲得予想議席は7か8に激減すると出たのです。その後の調査でも数字に大きな変化はなく、一方、別れさせられたハトゥヌアの方は、比例代表制の選挙で議席獲得に必要な投票総数の3.5%を得られない可能性さえある、という危機的状況です。このままでは、二国家共存のもとに和平交渉を進めようと主張する勢力は、国会でさらに後退することになりかねません。

これに対し、リクードの予想議席は30議席前後と堅調です。汚職の噂が絶えないネタニヤフ首相には多くの国民がうんざりしているものの、代わるべき有力者がいないため変化は生まれえないという空気のようなのです。これに一石を投じようとして、ベニー・ガンツという元軍参謀総長が去年暮れに「イスラエルに力を」とでもいうべき名の政党を立ち上げました。政治に清新の気を、という風に乗ろうというのでしょうか、パレスチナ問題での立ち位置は

はっきりしません。ただ、治安問題では自分は右派であると表明しており、党の選挙広報では、自身が参謀総長として指揮を執った2014年のガザ戦争において「6,231カ所の標的を破壊し、1,364人のテロリストを殺害した」と戦果を誇るような表現をしているそうです。ちなみに、国連人権理事会の報告では、イスラエル軍の攻撃ではパレスチナ人2,251人が殺害され、うち551人の子どもを含む1,462人が一般市民だった、としています。

イスラエルでは軍出身者への信頼が高く、過去にもネタニヤフ首相を批判して政界に打って出た元参謀総長がいましたが、政治経験がないことなどを突かれるなど叩かれ、泥仕合を嫌って撤退したということがありました。投票までにまだ曲折がありそうです。

しょせん、よその国の選挙とはいえ、イスラエル・パレスチナ関係のこれからを注目する私たちにとって、結果が気になります。



認定NPO法人聖地のこどもを支える会の 会員になりませんか？

さまざまなプロジェクトをはじめ、教育支援事業など、当会の活動を総合的に支えていただく会員制度。あなたのご意見が、平和のつくり手を育てます。事務局までお気軽にお申し出ください。

正会員	個人	年額	12,000円／1口
	学生	年額	6,000円／1口
サポート会員		年額	6,000円／1口

正会員は、当法人の総会等での議決権を行使することができます。

スタディツアー 2019 事前研修を実施

今年も、2月27日から3月10日までの12日間にわたって、イスラエル・パレスチナ スタディツアーを行います。今年のツアー参加者数は、学生9名と社会人3名です。

より多きツアーにするために、事前研修を2回開催しました。第1回は泊まりがけで1月19日、20日にJICA東京国際センターで、第2回は2月9日に同所で開催しました。

第1回の研修では、イスラエル・パレスチナに関する基本的な情報の事前課題の調査と発表、現地の人々の苦しみ、悲しみ、怒り、不安などを追体験するロールプレイ（役割分担劇）、さらに参加者同士の絆を深める内容の研修を実施しました。

第2回では、各自の近況報告、スカイプによる現地スタッフのヤクブと初めてコンタクト、およびツアー中のスケジュールや持物の確認などツアーに備える具体的な内容を説明し、イスラエル・パレスチナ訪問への期待感を高めることができました。

研修を終えた参加者の、ツアーに向けた決意表明をご紹介します。

新たな道を見つけ一歩を進める

伊藤 友香

今回のスタディツアーでは、将来にける第一歩を見つけるものになりたいと考える。

事前研修のビデオやロールプレイ、井上さんのお話を通じて、イスラエル・パレスチナ両国の人々の強さ、そして平和への道がどれほど険しく、細いものなのかということを感じさせられた。日本に住む私たちが、彼らのためにできることは、限られているのかもしれない。しかし、同じ人間として、苦しみに寄り添うところから、友人となるところから始めたいと思う。

4月からは外交官として働き始める。国益だけを



事前研修でのワークショップ

第一に考えるのではなく、人間として、苦しんでいる人々に寄り添える外交官になりたい。それを心に留めて今回の旅に臨みたい。

また、難民キャンプで暮らしている人々の生活を自分の目で見て、何が自分に出来るかを問いかけた。現在 UNHCR の東京事務所でインターンをしているが、難民を支援するために資料や文献を読んでいたとしても、現場に行ったこともないため、どこか他人ごとと感じてしまう。東京のオフィスで働いては気づけないことを、難民キャンプに実際に足を運んで学びたいと考えている。

最後に、自分の礎となっているキリスト教の信念をエルサレムの土地で感じたい。大学を除き、幼稚園・小・中・高とキリスト教の学校に通っていたため、イスラエルは地理的には遠く位置していても、自分の中のものさしに大きく影響を与えた場所だった。就職を目前に控えた人生の転換時期に、イスラエルを訪れることは、新たな道を見つけ一歩を進める機会となると信じている。

人に伝えられるだけの知見を吸収

ウェン・ユウシャン

私は、昨年スタディ・ツアーを体験した人たちの感想を聞き、また、大学で中東研究を専攻しているので、参加することにしました。

今回の事前研修は、大学のテストや就職活動と重なっていたので、準備の面で大変苦労しました。しかし研修で一緒に行く参加メンバー同士と知り合うことができ、同時にイスラエル・パレスチナの知識を再確認できたので、有意義な二日間でした。

一番大きな収穫は、ツアーの目的を確認できたことです。私はその場で何が起きているのかを知ることが重要だと考え、現地に行って多くのことを体験し、来年のツアー参加者に伝えることがとても大切だと考えています。私は微力ですが、来年、一人でも多くの人にこのツアーに参加してもらい、イスラエル・パレスチナの現状を知ってもらいたいと考えました。そのためには私自身が今回、人に伝えられるだけの知見を吸収して帰って来ようと決意を新たにしています。

ホームステイで本音を

塚本 麻衣

スタディツアーの出発までにできることは少ないかもしれませんが。しかし新たな視点を持ち、何を勉強すべきなのかを明確にできただけでも大きな収穫だと思います。

ワークショップでは他の参加者の方とのグループワークを通じて多くのことを学びました。特に、自分の「人間」への想像力についてです。法律学などを勉強してきた身ではありますが、今まで人の感情というものにあまり焦点を当ててこなかったことが判明し、自分でも驚いています。当事者が苦しみや悲しみ、怒りなどを持つこと、そしてそれらを乗り越えて許すということの難しさを知りました。

私は課題の発表で、当事者で話し合えば解決するのだろう、と提案しました。しかし果たして話し合いや認め合いは実現するのだろうか。当事者の感情や語り継がれた物語は簡単に片付けられるものではありません。それでも続けることに意味があるのかもしれない、とも思います。

スタディツアーの出発までにイスラエル側とパレ

スチナ側の歴史を調べ、「物語」として語られる「歴史」をより深く掘りさげたいと思います。そしてこのような「物語」の存在を認めつつも、双方の市民の、草の根的な活動も事前に調べたいと思います。最後に、私はツアー中のホームステイを楽しみにしています。本や手記で読む「物語」と感情に配慮しつつも、本音を聞いてみたいと思っています。

貴重な経験を周囲に

山田 涼華

事前研修を終えて

2日間の事前研修を通じて、「なぜイスラエル側はユダヤ人の単一民族国家設立にこだわるか」など、本を読むだけでは答えの見つからない疑問が多く生まれました。やはり人々の感情に深く根付く問題は、実際に現地を訪れて人々の話を聞くことで初めて理解できるものだと感じたので、ツアーを通じて今回抱いた疑問へのヒントを得たいです。

ツアー本番に向けて

渡航前に、事前研修で学んださまざまな問題に関して知見を深めるだけでなく、自分なりの意見も確立していきます。その上で、現地ではできるだけ多くの人の考えを聞いて、自分の考えが揺さぶられるような体験をしたいです。

また、現地の大学生との交流やディスカッションを大変楽しみにしています。互いにこれからの社会を担っていく存在として、パレスチナ紛争にとどまらず、世界中で起きている問題についても意見交換できることを楽しみにしています。異なる教育を受けてきた同世代の人々の意見を聞いて視野を広げるきっかけにしたいです。

また、帰国後は、ツアーを通して得た貴重な経験を周囲になんらかの形で発信していきます。加えて、平和構築に関心のある身として、自分の進路を再考するきっかけにもなるような実りある研修にしたいです。

イスラエル・パレスチナ、それぞれから見える相手の顔

水野 真鈴 国際協力の仕事でパレスチナの事務所に駐在

私は、国際協力の仕事で、2018年9月からパレスチナに赴任しています。

イスラエル・パレスチナ問題について思うことは多々ありますが、まだ赴任して半年足らず、まだまだ毎日が発見の連続です。それでも、住居はエルサレム、仕事はパレスチナ、休日に必要があればイスラエルに（テルアビブにだって）行けるという、イスラエル・パレスチナ間を自由に移動できる立場だからこそ、見えることがあり、ご報告できることがあるのではないかと考えました。

私の勤務地は、ヨルダン川西岸地区のジェリコという都市です。1万年の歴史があり、世界最古の都市とも言われていますが、市内の人口はわずか2万人程度。世界で最も標高が低い都市でもあり、なんと最低地は海拔マイナス400メートル。低地のために気温は非常に高く、夏の最高気温は40度を軽く越えてしまいます。私が初めてジェリコを訪れたのは9月下旬でしたが、顔面にドライヤーを吹きかけられるようでした。エルサレムに住居が見つかるまでの約2カ月間、そのジェリコで生活しました。

ジェリコの人々は、人懐こくて親切で、外国人の私が通りを歩いていると、皆が好奇心をむき出しにして「ハウアルユー！」「アフラン・ワ・サフラン（アラビア語で「ようこそ」の意）と声をかけてくれます。仕事や趣味のサッカーを通じてできたジェリコの友人は、休日になると家族そろっての昼食に招待してくれ、おいしいパレスチナ料理をふるまってくれます。人々の温かさ心打たれる経験を何度もし、エルサレムに引っ越した今も、ジェリコでの生活が恋しくなります。

しかし、そんな優しいジェリコの人たちも、反イスラエル感情は深いようです。エルサレム近くの実家が、イスラエルの入植によって道路を挟んで分断されてしまい、家族間の行き来が自由にできなくなってしまった人の話も聞きました。所属するサッカーチームの若者たちは、ユダヤ人がここにき

たら、無事では帰れない、と言います。ジェリコは行政・治安をパレスチナ暫定自治政府が担っている地域で、市内にいる限りイスラエル人との接点は全く無いのですが、それでもそのような思いは強いようです。

一方、イスラエル側はどうでしょうか。テルアビブ近郊にお住まいで、イスラエル在住10年以上という何人かの日本人とお話する機会がありました。私が仕事でジェリコやラマツラに日常的に入っていることを話すと、とても驚かれて、「危くないの?」「ジェリコなんて、恐ろしくて入れない…」「奥さんは毎日無事の帰宅を祈りながら家で待っているの?」「もちろん、パレスチナ人の中にも良い人たちもいるってことはわかるけど…」といった反応でした。

日常的にパレスチナ人と接していた私には、その反応は驚きで、ジェリコでの生活がどれだけ穏やかで、友人に恵まれて楽しいものだったかを伝えようとしたのですが、にわかには信じがたい様子でした。

日本人ですらこのように思っているのですから、一般のイスラエル人にとっては、パレスチナ側に入る、パレスチナ人と友人になる、というのは、頭の隅にもものぼらないのかもしれませんが。そういえば、イスラエルで皆が使っているカーナビのアプリを使っていて、パレスチナ領域に近づくと、「ここから先は危険地帯です。引き返して下さい」というような警告が流れます。私たちは大げさなこと、と笑っていますが、イスラエルの人にとってはそれが現実なのでしょう。

それでは、いわば中間のエルサレムはどうでしょうか。エルサレムでは、少し状況は違います。ユダヤ側の西エルサレムとアラブ側の東エルサレムに分かれてはいるものの、幹線道路一本を挟んでいるだけで、東西の移動に制限はなく、西側でもアラブ人の姿は頻繁に目にします（逆に、東側にユダヤ人を見ることは稀かもしれません）。ここでは、人々はお互いに憎しみはあり、水と油のように交

じりあうことはないながらも、共存しているように見えます。不動産業をする友人のアラブ人は、「もし間違えてユダヤ人に家を売ってしまったりしたら、周りのアラブ人から刺されるかもしれない」と言いますが、東エルサレムに住むアラブ人にとって西側に入ることは日常で、エルサレムに入ることすらできないヨルダン川西岸地区に住むパレスチナ人とは感覚がずいぶん違います。

このように3地域での日常に触れて、感じたことが3つあります。

1つ目は、双方が偏った報道に支配されていて、相手の最悪の部分を誇張して見ているところがある、ということです。長い歴史の中で積もりに積もった恨みや憎しみがあるためか、パレスチナ人は「イスラエル人はみな血も涙も無い冷徹な人種」、イスラエル人は「パレスチナ人はみな凶暴な人種」だと思い、そう思うことを是としているような印象があります。残念ながら、そう感じてしまう現実があります。ジェリコの人と話していると、イスラム教はとても平和や敬意を尊ぶ宗教だと感じますし、ユダヤの人も頭がよく、礼儀正しくて親切な人たちです。

2つ目は、そんな状況だからこそ、どちらにも自由に行き来できる私たちが果たせる役割があるのではないかと、ということです。根の深いイスラエル・パレスチナ問題のことは、「所詮外国人にはわからない」と突き放されてしまうかもしれませ



パレスチナ家庭に招かれて、アラブ料理を楽しむ水野・池上夫妻（ジェリコ）

んが、逆に「外国人だからこそわかることがある」とも言えるのではないのでしょうか。ユダヤ人を憎むジェリコの若者は、実際には一人のユダヤ人にも会った事がないかもしれませんが、テルアビブのビジネスマンはパレスチナでビジネスをするなどは考えもしないかもしれません。

どちら側にも自由に入れ、一方に肩入れすることなく物を見ることのできる者の役割は、双方をつなぐことではないかと思います。

3つ目は、そのようなことを実現するには、イスラエルのこともパレスチナのことも、自分自身により深く理解することが欠かせないということです。任期いっぱい、この地のことについて学び、少しでも平和に貢献できるよう、努めていきたいと思っています。

支援金の自動払込みサービス

ご好評を頂いている自動払込みサービス。まだの方はぜひご利用ください。

- * 毎回 郵便局へ払込みに行く手間が省けます。
- * いつからでも、いくらからでも 簡単に始められます！

お申込み・お問合せは
当法人事務局 **03-6908-6571**
または **042-636-9218** (中山)

顔の見える支援 里親募集中!

ある特定の子どもを、毎月一定の支援金で継続的にサポートする里親制度。一歩進んだ国際協力のかたちです。

里親と里子の間で、写真や手紙の交換をすれば(任意)、個人的なつながりが持て、子どもの成長を身近に見守ることができます。

詳しくは、当法人事務局まで。

スタディツアー事前研修で



研修の合間に、みんなでランチ。



JICAのロビーで。OB、OGも参加して、実りある事前研修ができました！

ラマラの街で出会った子どもたち



野外コンサートで、ノリノリの子どもたち。



野外での読み聞かせ会での女の子たち。恥ずかしがっている子もいる。



スーク・エル・ハラジェと呼ばれる野外フェスティバルで。



クリスマス会で、化粧して得意げな子どもたち。



クリスマス会で折り紙を習いました。上手にできたね！

地中海沿岸、 ガザの街の 美しい夕焼け

写真撮影
浅野耕二、水野真鈴、
ラミ・アルジェルダ、
ダリーヌ・ラマ

